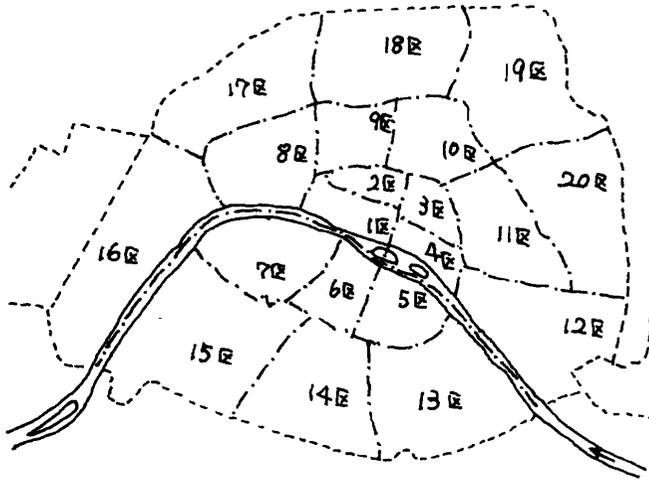


ヨーロッパとアメリカの都市を見て

横山 弘

昨年10月から12月にわたる3ヶ月間、ヨーロッパとアメリカの都市を見てきた。ヨーロッパといっても、イタリア、フランス、ドイツ・イギリスの西側諸国で、東側の国や北欧にはいかなかった。都市を見て感じたことは、これらのヨーロッパの都市は古い歴史的過程の中に形成され、都市の中に歴史的遺構がはっきりと残っており、現在でもその地域分化の中に生きていることである。日本の都市も城下町や門前町、宿場町などにその様な点が見られるが、建築材料の違いからヨーロッパの場合には保存が非常によい。ローマの場合を見ると、カラカラ帝浴場跡、コロセウム、フオロ・ロマーノ、カピトルの丘、パラティノの丘といった古代遺跡の保存されている地区は観光地区として、古い遺跡と近代建築が共存しており、一面では都市再開発を妨げる結果となっている。これは観光都市の宿命でもあろうか、古い遺跡はノラ猫の棲かとなっている。その地区の北部にはサンピエトロ寺院の門前町として発達した地区があり、現在のローマの中心部を占めている。ルネッサンス様式及びバロック様式の建築物が並び、商業活動の活発な地区となっている。終着駅トレミニを中心にした地区はイタリア王国の首都になってから、第二次大戦まで発展した地区で、ビジネスセンターとなっている。この頃に地域分化を示した住宅地区はボルゲーゼ公園を中心にした高級住宅地区やテルミニ駅の西及び南に形成された一般庶民住宅地区である。第二次大戦後は四方に市街地が拡大し、郊外の丘陵地にも住宅地区がのびている。この様にローマ市街が各機能地域に分れており、それらが歴史的遺産として形成されたことが判然としている。パリの場合にもそのことがいえる。パリ発祥の地はセーヌ川の中の島であるシテ島といわれ、ここを中心としてセーヌを上り下りする船荷の集散地として発達した。ヨーロッパの都市は必ずといってよいほど水運の便のよい所に立地している。都市の発展にとって交通がいかに大きな比重をもっているかを物語っている。この発祥の地であるシテ島は現在でもパリの中心になっており、裁判所、警視庁、市立病院、市役所、造幣局といったように官公庁施設によってみたまされている。ここを中心として、パリの市街は同心円的な拡大を示し、それぞれの機能によって地域分化を示している。パリ市街は20の区からなっているが、シテ島の下流部半分からなる第1区を起点として右廻りの渦巻状に20区まで配列している。日本の場合には縦或は横の順序に配列してあるのが普通であるが、パリの場合はカタツムリ料理の本場だけあって行政区画が渦巻になっている。1、2、9地区はルーブル宮からモンマルトル丘までの間にあるが、商業地区をなし昼間人口と夜間人口の差の大きい所となっている。この地区は職住が分離しており、郊外の住宅から通勤しているものが多い。

第一図 パリ市区



自分の泊ったホテルもこの地区にあり、昼間は経営者がおるが、夜間はガードマンを頼んで住宅へ帰る仕組みになっている。会計などは経営者が出勤するまでは出来ないようなホテルが多い、3, 4, 10区は商業活動のさかんな地区であるが、前者とくらべて老朽建築物の多い都市再開発の対

象地となっている。シテ島の南部には5, 6区があり、カルチエ・ラタンと呼ばれパリ大学を中心として文教地区を形成している。パリ大学本部、文理学部、各学部、高等師範などが集まり、学生の街としてカフェや書店が並んでいる。日本ならば神田といったところである。7, 8, 16, 17の区は市街の西部をしめ、比較的豪荘な建物があり、とくに16区はシャイヨーの丘に高級住宅地区が形成されている。それに対して11, 18; 19, 20の地区は市街の北部及び東部にあり、工場や倉庫などが多く労働者住宅地区ともなっている。13, 14, 15区は市街の南部を占め、一般庶民住宅地区となっている。市街地の拡大は西部の方向に向かって行われている。パリ市の自動車台数は近年急激に増加し、駐車場の新設が追いつけず、裏通りには駐車違反の車でごったがえしになっている。パリの中心部に官公庁や会社、営業所が集中しているため、パリ周辺の郊外から通勤している人口が年々増加するにつれて、交通渋滞を緩和する方策の必要性が増し、都市再開発が急速に進められることになった。その1つとしてとりあげられたのは、駅周辺を整備して官公庁を移し、通勤の混雑をいくらかでも緩和しようとするのである。モンパルナス駅、北駅、ボンヌイ駅周辺にその実施が見られる。

ロンドンの場合もテムズ川畔のロンドン塔の場所がローマ時代の砦で、ここがロンドンの発祥の地となっている。現在でもロンドン塔の中に当時の壁が残っている。当時のテムズ川はロンドンブリッジの所までしか大型船が遡行出来ず、ここを中心に商業取引が行われた。この地区はシテ・オブ・ロンドンと呼ばれ、イングランド銀行、取引所、市長公邸などがあり、その他大銀行、商店、出版社が集まり、金融地区を形成している。したがって、この地区は昼間人口と夜間人口の差の大きい地区となっている。その西部の地区はその後イギリスを征服した

ノルマンジー公ウイリアムがウエストミンスターで即位し、ここを居城としてから発展したところで、バッキンガム宮殿、国会議事堂、官庁、博物館などが集中し、官公庁地区を形成している。後にオックスフォード通りやリーゼント通りなどの商店街も形成されて、中心が西の方へ移動している。住宅も人口の増加にともなって郊外に拡大し、住宅地区を形成しているが、人口の過密化は更にニュータウンの建設を推進させている。

ボンの場合にもローマ時代につくられたライン河畔の砦が発祥地で、中世になると寺院が建てられ、その門前町として栄えた。ローマ時代の城壁の一部が市街の中に異様な姿で残っている。中世の寺院も街の中心部に聳えて、かつてのおもかげを残している。この砦時代の市街地と門前町とが結合して現在の市街地の中心部をなしている。その後大学が建てられ、文化の中心となって栄えたが、第2次大戦を契機としてドイツ連邦の首府となり、行政官庁、国会議事堂、大統領官舎、議員会館などが集中して、市街地の東南部に官公庁地区を分化している。さらに市街地の北部には工業地区を形成し、西部及び西南部の丘陵地に住宅地区を形成している。ボンの市街地も現在に至るまでには歴史的な幾多の過程を経て形成されたのである。以上の様にヨーロッパの都市は長い歴史的過程を通して都市が形成され、都市構造の中にそれが生きている。

アメリカの都市を見ると、歴史の浅いこともあろうが、都市構造の中に歴史的な複雑さが見られない。ニューヨークの場合を見てもマンハッタン島南部のウォール街が最初の中心地であり、証券取引所があって、金融経済の中心となってきたが、ヨーロッパのような特別歴史的古さを示しているわけでもなく、最近マンハッタン島中部の5番街が中心商店街、エンパイアステートビル、劇場などによって中心的存在となってきた。それに対してウォール街は若干中心性がうすれて来たので、回復策を講じている。ニューヨークの都市構造は歴史的要素よりもむしろそこにすみついている人種や階層によって地域分化がなされているように思われる。南の方にあるチャイナタウンは中国人がレストランや日用品の小売をやっているが、なんとなく雑然とした地区を形成している。北部のハーレムは黒人の多い地帯で、きたなくスラム化している。そこには黒人同志がかたまる性格が見られる。犯罪が多い事やきたない事が白人をその地区から追出している。リバーサイドパーク付近にはハドソン川を下ってくる原料による工場が立地して、その機能をはたしている。住宅地区も分化して、郊外にのびて団地がたてられているが、1戸建住宅はクィーンズやブロンクス、ニュージャージー側に建てられ、アパートの中でも高級住宅はハドソン川に面した眺望のよいところにたてられている。都心部では高層建築の上にさらにかさ上げをして、土地利用の高度化を図っている。

ヨーロッパにおいては鉄道利用者が多く、これらの人々による通勤ラッシュが駅前の高い交通量となり、駅前地区を繁華にしている。しかし、アメリカにおいては鉄道利用度が少なく、

したがって駅前の混雑もなく、豪華さもない。これが駅前かと疑われるような状態である。むしろ、ハイウエーの交差点などに立体的パーキング場の建設及びモータールの建設が盛んで、交通機関の利用度の差違を判然と示している。